

消防だより

No.95



火の用心

Tokamachi Fire Department

平成31年2月5日



特集

消防団

地域を守る

後編



総務省消防庁が来年度に全国配布する消防団員募集パンフレットに、消防団協力事業所のモデルとして、十日町市本町7丁目1の(株)拓越様が掲載されました。先行して十日町地域消防本部と各分署で配布していますので、是非ご覧ください。

※消防団協力事業所とは

地域の消防防災力の充実強化を目的に、災害時における従業員の消防団活動への配慮や災害対応の連携・強化を図る企業です。また、協力事業所に対して表示証を交付しております。

消防団が地域を守る！

2018年の漢字
 昨年は全国で多くの災害が発生し、一年を象徴する漢字に「災」の字が選ばれました。同じ「災」の字が選ばれた2004年には、十日町市・津南町では「新潟・福島豪雨」、「中越地震」、「豪雪」と災害救助法が適用された災害が三事例発生しましたが、その度に住民同士や消防団、行政が協力し合い、地域が一丸となり乗り越えてきました。前号に続き、大規模災害から地域を守るために重要な力となる「消防団」について紹介します。

「公助を補う消防団」

「阪神・淡路大震災」では、倒壊した建物から救出され生き延びることができた人の約8割が、家族や近隣の住民（自助・共助）によって救出され、消防や警察、自衛隊などいわゆる公的機関（公助）によって救出された人は、2割に満たない数でした。
 また、「東日本大震災」では、本来なら被災者を支援しなければなら

「消防団の課題」

そんな時に頼りになるのが、公助と自助・共助の懸け橋となる「消防団」です。
 前号で紹介したとおり、消防職員の20倍以上という圧倒的な要員数と地域事情に精通し即時対応力を有するこの組織は、災害が大規模になればなるほどその力を発揮します。
 しかし…
 この地域を守る消防団にもいくつかの課題があります。

消防団員数の減少

過去10年間の消防団員数は年々減少の一途をたどり、現在では2500人弱となっています。また、年齢別に見ると若年層の減少率が高く、平均年齢の上昇につながっています。

この要因として、過疎化や少子高齢化、あるいは帰属意識の希薄化といった地域社会の変容があげられるほか、今後も見込まれる人口減少など、消防団の活動力低下が心配されています。

山間地域消防団の維持に課題

十日町市・津南町の中でも、特に山間地域集落の消防団については人員の確保や維持が困難な状況となり、山間地域の防災力低下が課題となっています。

「消防団が地域を救う」

災害の規模が大きければ大きいほど、消防署だけで対応することが不可能になります。現在、広域的な救援活動として、県外など他地域から応援してもらった「緊急消防援助隊」という制度がありますが、応援要請をしてから被災地で活動を開始するまでには、ある程度の時間を要してしまいます。

防災の要は地域にあり

災害が発生した直後の地域住民同士の助け合いや人命救助、初期消火への適切な対応で、被害の状況が大きく変わります。
 その中でも、日ごろから各種災害への備えや応急手当訓練などを行い、また、近隣家の立地場所や家族構成などの地域それぞれの事情に精通している消防団は、災害の種類に応じた確かな活動を行うことができるのです。

大きな災害が発生し、自分や家族に命の危機が迫ったとき…

いち早くそれに気づき、

救出活動を始めてくれる消防団

「地域に消防団がいてくれる」という心強さが、真の「安心・安全」につながるのではないのでしょうか。

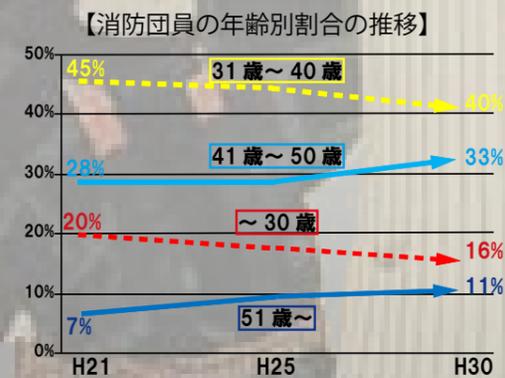
地域に貢献する消防団に…

皆さんから少しでも地域の消防団に関心を持っていただき、活動する消防団員を励ますとともに、地域の若者を消防団へ送り出していただければ幸いです。そうした積み重ねが消防団を活性化し、災害に強い地域の礎となり、活気あふれる地域づくりにつながります。「防災の担い手になってみませんか？」

消防団員は一年を通して募集しております。十日町地域消防本部又は各分署へお問い合わせください。

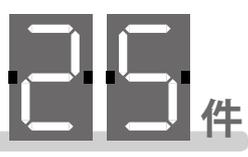


消防団員は人口減少に比例して減少が著しく、この10年間で約10%減少しています。年齢別割合の推移をみると、40才以下の消防団員の割合が減少していることがわかり、これは消防団員の高齢化も示しています。



数から見える十日町消防

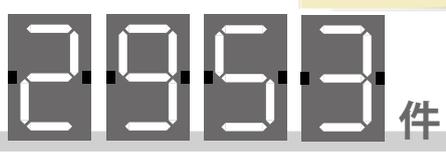
火災



前年比±0件

救急

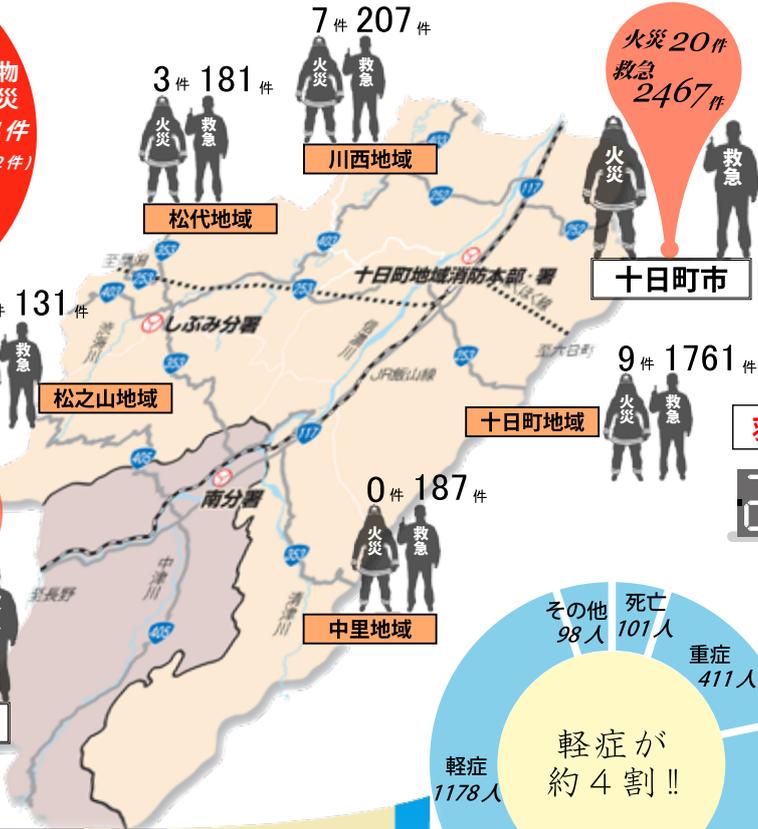
1日に約8件の救急出動!!



※栄村など管轄外の救急出動12件 前年比+36件

火災種類別

※()内前年比



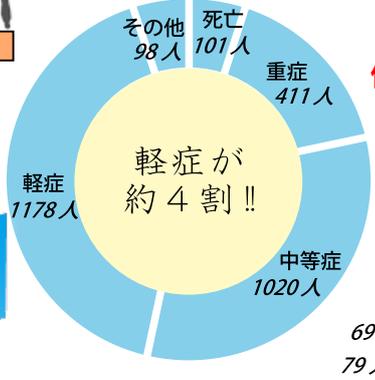
主な火災原因

- たき火 (7件)
- こんろ (3件)
- 電気装置 (2件)
- 電灯・電話等の配線 (2件)
- 取灰 (2件)
- 風呂かまど (1件)
- たばこ (1件)
- 放火の疑い (1件)
- 煙突・煙道 (1件)
- その他不明調査中 (5件)

救急搬送人員



傷病程度別搬送人員



年齢別搬送人員



管内人口の22人に1人の割合で救急搬送されたことになりました!!

65歳以上の高齢者が約7割!!

消防団員募集中

一緒に仲間になろう!

第69回新潟県ポンプ操法競技会 出場消防団員の皆さん



▼火災件数は、前年と同じ25件と変わらなかったものの、住宅火災が建物火災14件中6件と前年より3件減少しました。また、火災による死者の発生はなく、負傷者も少ない人数にとどまりました。出火原因を見ると「電気装置」や「配線」といった電気に関連する出火が多くなっています。一方、暖房器具からの出火は、例年と比べて少ない件数となりましたが、これからまだまだ寒い日が続きますので、暖房器具の取扱いは十分にご注意をお願いします。

▼救急は、高齢者搬送の増加が全体の件数を押し上げており、年々増加の一途を辿っています。しばらくは高止まりの傾向にあると予想されます。十日町地域消防署では昨年4月より出動する救急車を1台増やし、多くの救急事案に対応しています。皆様も引き続き、ケガの予防や健康管理に気をつけていただければと思います。星名



消防だより 火の用心
発行 十日町地域消防本部 〒948-0007 新潟県十日町市田町新田1-4-1番地
編集 総務課企画広報係 ■電話 025(75)0119 ■FAX 025(75)78499
ホームページ <http://www.tokamachi-kouiki.jp/> ■E-mail tdf119@tokamachi-kouiki.jp